

“行動”できる大人になる

「発言」(中日新聞)より

私は自分で決めたことや思い立ったことを行動に移すことが苦手です。「他の人がやってくれるだろう。今やらなくても大丈夫だろう」と考えてしまいます。

教室のごみ箱がいっぱいになって、ごみがあふれ出しているとき、「今日は掃除がないからいいや。当番じゃないし…。気付いた誰かがやってくれるだろう」と思ってしまいます。その後、誰かが片付けてくれているところを見て、私はすごく自己嫌悪に陥ります。「自分が気付いたときにやっておけば良かった。本当に申し訳ないな」。そんな気持ちになります。こんな自分を省みるたび、自分はモラトリアム人間だなと思います。

私もあと3年で、社会人になります。大人になっても今のようなモラトリアム人間でいたくありません。私は進学後の3年間でたくさんの経験をし、自分の考えに自信を持って行動できるような人間になりたいです。

西倉 明里(三重県御浜市=高校生・18歳)

※ **モラトリアム人間** ・ 年齢では大人の仲間入りをすべき時に達していながら、精神的にはまだ自己形成の途上にあり、大人社会に同化できずにいる人間。いつまでも大人になろうとしない青年期延長型の人間。

「言うは易し 行うは難し」(言うはやすし 行うはかたし)



「白樂天」は、中国の唐の時代の詩人です。白樂天が若い頃、「道林」という禅僧に、「仏教の根本の教えは何か」と尋ねると、即座に「諸悪莫作 衆善奉行」(悪いことをするな、善きことをせよ)という答えが返ってきました。あまりに平凡な答えに、あきれた白樂天が「そんなことは3歳の子供でも知っていることではありませんか」と言い返しました。すると、道林は、「3歳の子供でも知っているであろうが、80歳の老人でさえ、行うのは難しい」と平然と答えました。白樂天はすっかり参ってしまい、後に、道林和尚のもとで修行したと言われています。

この教えは、「知っていることと、実行していることとは違う」と、私たちに示してくれています。「物を大切にすることは良いことだ」「人の悪口を言うのは良くないことだ」とは、子どもでも知っています。しかし、私たちは、これらのことを実行しているでしょうか。「言うは易し 行うは難し」(何をするにしても、口で言うのは簡単だがそれを実行するのは大変難しいということの教え)ですね。あれこれ言うだけではなく、多くのことを実行することこそ善なのです。常南っ子も、こんな行動力のある人になってほしいものです。

